

# <概要版>

## 路上バス停設置に係る社会実験

### 路上バス停利用者アンケート調査結果

#### 【調査概要】

社会実験期間中に路上バス停の利用者に対して、路上バス停の安全性や利便性に関する事項についてのアンケート調査を実施した。

#### 【調査日】

調査日	前半：平成 28 年 11 月 6 日（日）～平成 28 年 11 月 9 日（水） 後半：平成 28 年 11 月 10 日（木）～平成 28 年 11 月 13 日（日）
-----	--

#### 【調査方法および調査対象者】

路上バス停及び沿線歩道上で調査員より利用者へアンケート票を配布し、後日郵送回答とする調査を実施した。

#### 【回答期限】

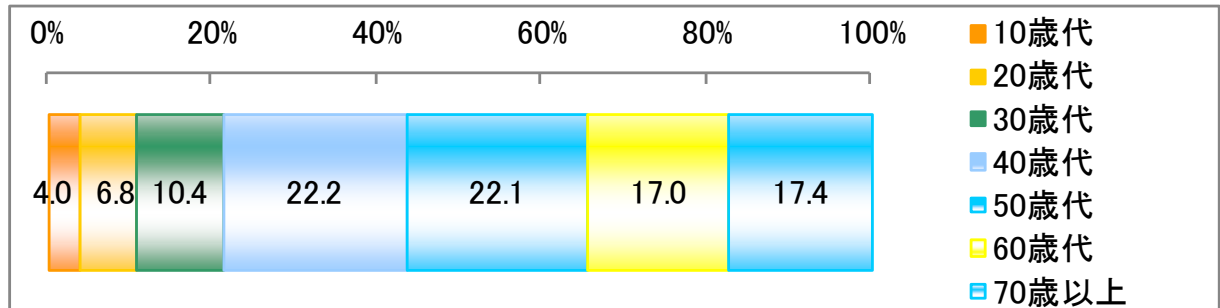
平成 28 年 12 月 16 日（消印分）

#### 【回答数】

回答者計	752
前半回答者	410
後半回答者	342

(1) 回答者の年齢層について

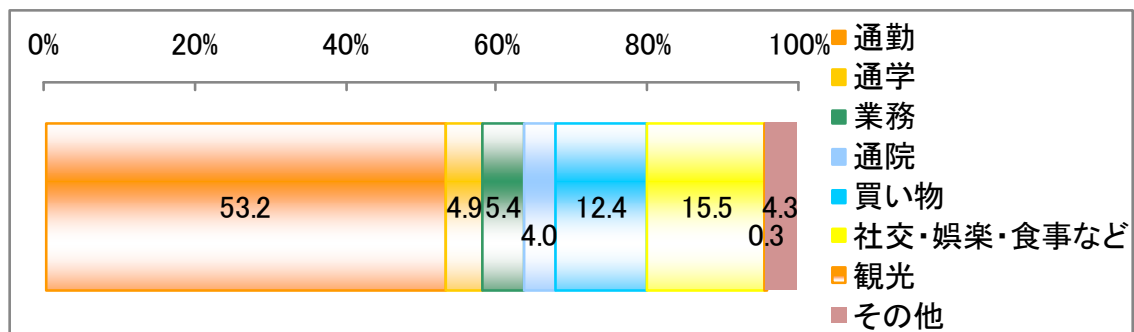
40歳代および50歳代ともに約22%であり、次いで60歳代および70歳代以上が約17%であった。



N = 747

(2) バスを利用する主な目的について

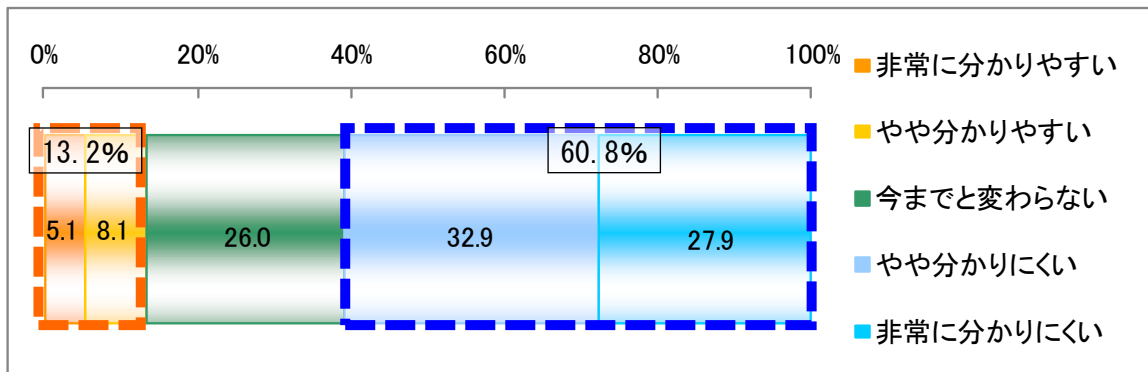
「通勤」利用が53.2%と半数以上で、次いで「社交・娯楽・食事など」が15.5%、「買い物」が12.4%であった。



N = 741

(4) バスの行き先や利用方法の分かりやすさについて

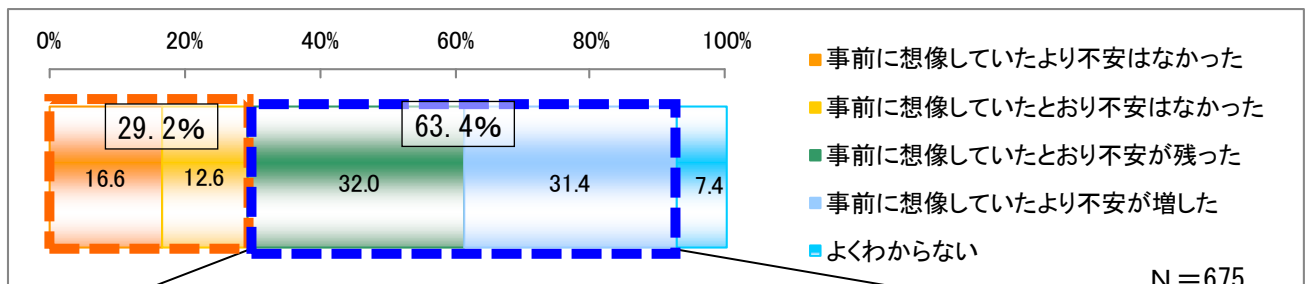
「非常に分かりやすい」「やや分かりやすい」と感じた人が合わせて 13.2% であったのに対し、「やや分かりにくい」「非常に分かりにくい」と感じた人が合わせて 60.8%であった。



N = 666

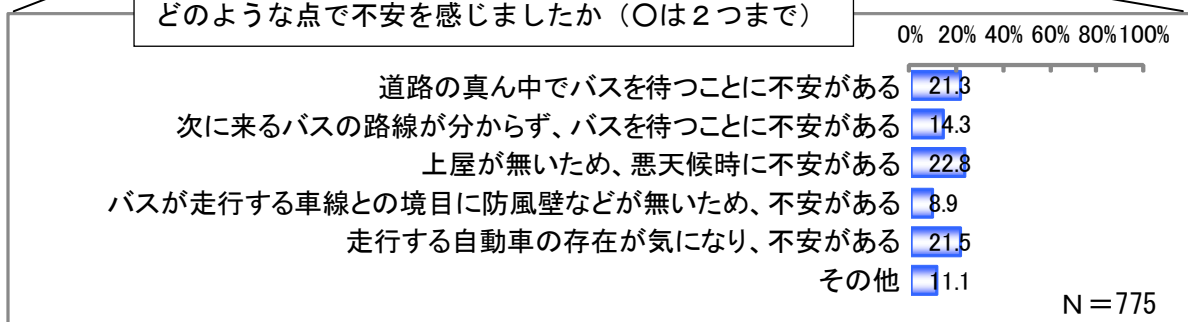
(5) 「道路の中央部でバスを待つ」ことについて

実験が始まる前の印象と比べて「不安はなかった」と感じた人が 29.2% であったのに対し、「不安が残った・増した」と感じた人 63.4%であった。不安の理由として、「悪天候時」や「走行する自動車の存在が気になる」ことや「道路の真ん中でバスを待つこと」が多かった。



N = 675

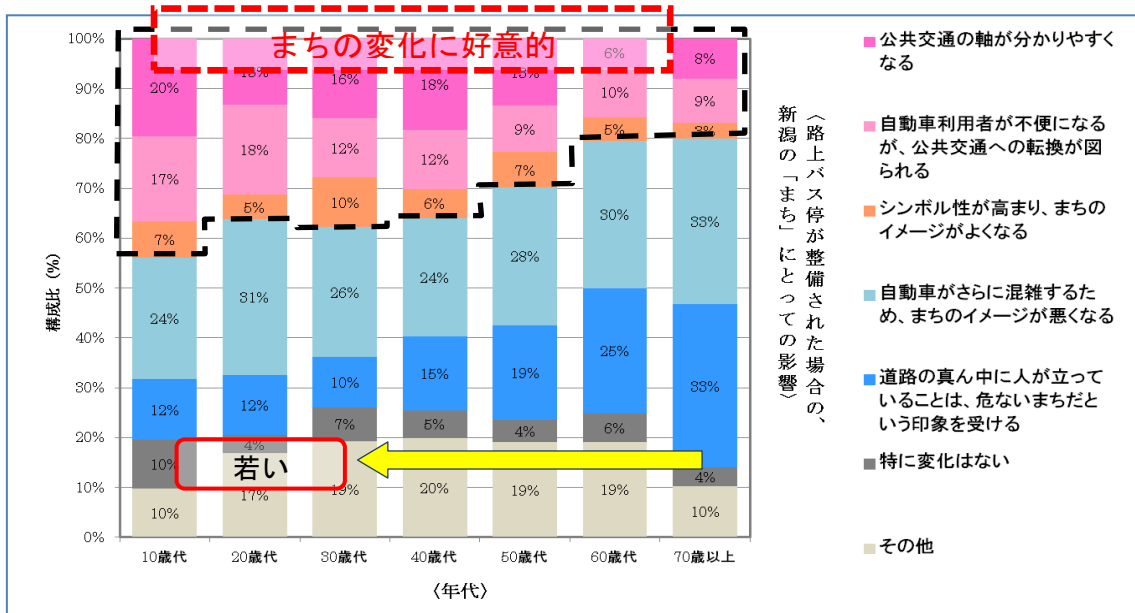
どのような点で不安を感じましたか (○は2つまで)



N = 775

(6) 【クロス集計】 路上バス停が整備された場合の、新潟の「まち」にとっての影響（年代別比較）

路上バス停が整備された場合の新潟の「まち」への影響については、10～40歳代までがまちの変化に肯定的な回答が約40%に対して、60～70歳代以上では約20%と半減する結果であった。



N = 1,191 (路上バス停が整備された場合の、新潟の「まち」にとっての影響の回答数)

○アンケート結果の活用について

本アンケートでいただいたご意見は、安全施設の配置等による車両誘導や路上バス停の安全確保等の検討に反映していきます。

また、まちづくりと一体となった持続可能な公共交通体系の構築を目指していくことについてもPRを図っていきます。